うたごよみ 曽於文藝

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳 氏

俳句

末吉千草俳句会

十六夜や　思ひ出偲び　水の音
浜田　郁子

水澄みて池に映りし　花揺るる
児玉　タエ子

日に羽をひろけて　暫し秋の蝶
田之上　千代子

大隅俳句会

明かり増しいざよいの月木の間より
頴娃　晴美

図らずも迷ひ道して星月夜
岩重　みどり

夕焼や秋の憂いに佇ちつくす
河南　ミホ

短歌

末吉短歌会

山並を覆ひゐし雲流れゆき雄姿見せたり高千穂の嶺
草野　ミツ子

蜘蛛の巣は野のハンモック地に還る前のわくら葉ひとひらを乗せ
田之上　絹子

渋滞の車の脇を走りゆく乙女のポニーテール秋の陽返す
長倉　佳津子

大隅短歌会

うっすらと化粧紅さす酔蝶花夕ぐれ刻を誰れを待つらん
吉﨑　フサ子

瓜と西瓜七十半ばで初挑戦産毛まといて実の太りゆく
加塩　秀子

黄昏を蝉の合奏高まりぬ日がないちにち夏惜しむがに
渡辺　哲夫

財部短歌会

綱張りて子どもら苗植う学校田苗打ち人のたしかな配置
祝迫　道雄

おはようございますとあいさつ落し行く女子中生あじさいの径銀輪清し
山城　忠

肥薩路にいまなほ残りし木造の駅舎の温もりふるさと想ふ
杉村　リカ

心なき人は知らずに踏みゆきし小さき草にも花の咲きをり
川俣　若

心して歩けど時によろめきて吾が苦笑ひ老いの哀しさ
富山　治雄

被害者に届くと信じ三回鳴らす真幸の駅の幸せの鐘
井上　澄子

実父亡き娘の婿今年も父の日を祝ひてくるるに心痛むる
瀬戸口　芳子

水稲の株間を心して草を取る流るる汗に亡き父母想ふ
児玉　次雄

わが里に新燃岳の火山灰が降る農産のみの村々想ふ
橋口　貞男

10月19日に行われた小学生陸上記録会の様子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

月の夜ん　明ゆ褒めほめ婆と散歩
浜田　一好

月見会や　焼酎せか飲めば言こちゃのし
田代　勝泉

こら眩り　逢い引き邪魔な歯痒い月
鈴木　一泉

大隅薩摩狂句会

亭主にゃ飯　赤子いにゃ　乳をち忙こちょっ
山田　竜生

老人の忙こ作業をば　代わっやっ
黒木　義士

一年中　忙こちょっとに　貯まらせじ
西山　美代子